

SI SAKURASOH PRIMULA SIEBOLDII SAKURASOH PRIMULA SIEB
LDII SAKURASO
9号
2000.3.21
OH PRIMULA SAKURO
SIEBOLDII SAKURASOH PRIMULA SIEBOLDII SAKURASOH PRIMULA SIEB

さくらそう通信

国立科学博物館のサクラソウ生態展示

国立科学博物館名誉館員
金井 弘夫



科学博物館の
サクラソウ生態展示



1992年に自然史展示の更新計画の検討がはじまりました。植物の展示というものは他分野にくらべてどうもインパクトが少なくて悩むのです。動物はいろいろな剥製があり、地学は恐竜の化石が選ぶのに迷うほどあります。人類も遺跡や発掘品にこと欠きません。それらは博物館の所蔵標本から選べますし、購入という手段もあります。それにくらべると植物のおし葉というものは、い

くら美しい種類のもので、一般の観覧者を引きつけるものではありません。第一、おし葉を長時間の展示に出したら、風化して研究に使えなくなってしまいます。

というわけで、植物の展示はカラー写真のほかには、レプリカによる個体模型が、それを応用した生態展示が主流となります。わが国の植物レプリカ作成技術はきわめて優れたもので、花弁やおしべの一つ一つをとりはず

して型をとり、それらを元通り組み合わせて作ってゆきます。けれども観覧者には、それが単なる造花と思われるがちなのは残念なことです。

サクラソウの展示を作った理由は、姿も名前もよく知られていて、見た目に美しいこと、東京付近では有名な天然記念物であること、その保護が話題になっていたことなどによります。ちょうど花の季節だったので、田島ヶ原の保護地を見学させてもらいました。私自身は太平洋戦争の直後にあのあたりへ採集にでかけたことがあります。当時にくらべてたいへん派手な印象を受けました。

展示は180×60cmの面積にサクラソウ30本、ノウルシ15本という取り合わせで、あとは早春の緑を散りばめた、比較的アツサリとしたものです。計画の当初、展示室入口正面のアイキャッチャーにしようというはなしが出たのですが、これは遠慮しました。カラー写真で見ると、派手なみものになるとはとも思えなかったからです。それに、模型展示はほこりがたまりやすく、人目を引くために強力にライトアップすると、色あせが早くおこるからです。現在の展示はちょうど自然の状態に近いものですが、周囲の展示品の派手さにくらべて、むしろ控えめにみえます。壁面には、保護地の大正時代と現在の土地利用図を示して、サクラソウの生育適地が減少した様子がわかるようにしてあります。

植物学的には、サクラソウは異形花柱花をもつ植物として有名で、その模型が壁面展示されています。花屋にサクラソウ（プリムラ）があったら、花の中心をよく見て下さい。花の中心に小さな丸い穴があいている花と、穴はあるけれど小さな栓のようなものでふさがっている花があります。サクラソウの仲間は、同じ種類でもめしべの長い株と短い株があり、長いめしべでは先端の柱頭がちょうど穴の入口をふさぐような位置にあるのです。一方、めしべの長い花では、おしべの方は低い位置につき、めしべの短い花ではおしべは高い位置についています。受粉したとき、異なるタイプの花の間では種子ができやすく、同じタイプの花同士ではできにくいことがわかっており、異なる株の間での遺伝子交換をはかって多様性をひろげる仕組みになっているのです。

この模型を作るときに失敗がありました。大抵の花ではおしべの着く位置は花弁と花弁の間です。ところがサクラソウの仲間では花弁の基部におしべがつくのです。私が監修したのですが、ボンヤリ見過ごしてしまい、展示してから指摘されて、あわてて作り直しました。植物を観察するとき、ただながめて名前を覚えるのもよいですが、どんな当たり前の植物でも、ルーペでよく観察したり、花をこわしてみたりすると、誰も知らない思いがけない発見をすることがあります。

桜草原野の保存の必要性

三好理學博士と田島ヶ原サクラソウ自生地に関する博士の調査報告書は、「さくらそう通信」5号でご紹介していますが、今号では「東洋學藝雑誌第三十六卷第四百五十五號」に掲載された博士の論文を復刻、ご紹介します。

桜草原野の保存の必要

理學博士 三好 學

東京市を貫流する隅田川の上流なる荒川の沿岸には、所々に櫻草の生えたる原野あり。此原野は地味に於ても、又所生の植物に於ても、普通の原野と頗る其趣を異にせるにより、予は之を櫻草原野（Primula Plain）と名づけたり。

四月下旬の頃是等の原野に到りて見れば、一面に櫻草發生し、紅色の花を開き、美語言はん方なし。櫻草の外に著るしき草は野漆にして、花部の外圍の葉が鮮なる黄色を呈するにより、櫻草の紅花に對し色の配合甚佳なり。此外に尚固有の草類は紫の花の咲く丁字草、黄色の花を開くひきのかさ、淡紅花の**ゑんごさく**、**むらさきけまん**、白と淡紫との紋りの**すみれ**などにして、**すゐば**、**からまつさう**の如きものも亦共に發生するを見る。

凡べて櫻草原野は河岸より數丁に達せる平地にして、樹木とては**はんのき**、**やなぎ**其他少數の他の種類の生ずるのみ。一望廣濶の原頭は美しき花にて飾られたらば、麗なる春の日の心地は十分に現はれたり。故に斯かる原野は古來名勝地として知られ、都人士の多く遊覽したる所なり、浮間の原、戸田の原の如き是れなり。

櫻草原野は毎年夏秋の候には洪水の浸す所となり、従つて泥土を蒙るにより、地味肥え、植物の發生盛なるも、而かも其泥土質なるを以て特に之に適する草類のみ能く生育し、砂土質を好むものゝ如きは發生する能はず。櫻草が斯かる原野に多きは、一に其特性の然らしむるに由るなり。

春時に於ける櫻草原野は一面愛らしき花園の觀あれども、夏より秋に至れば丈高き草生ひ茂り、殊に當多く生じ、全く別種の趣を呈するに至る。季節の交代と共に植